

5

Annual Report 2014

卷末資料

院内行事

新規医療機器紹介

患者会・家族会活動実績

資格取得奨励支援制度

提案制度

学会発表実績

院内行事

	行事
4月	入社式
	青空いきいきウォーキング
5月	ふれあい健康フェスタ
6月	法人内認定看護師 認定式
7月	南館竣工式
8月	病院こども探検隊
9月	大規模災害訓練
	合同慰霊祭
10月	手洗い選手権
11月	消防訓練
	クリーンウォーキング
12月	クリスマスコンサート
	白十字会大忘年会
1月	年頭挨拶
	院内成人式
2月	白十字会 Institute
3月	地震避難訓練
	院内看護研究学会

クリスマスコンサート

12月20日(土)1階ロビーにおいて恒例のクリスマスコンサートが開催されました。

毎年、多職種の職員が出演し、合唱や合奏を行っています。合唱にあわせて一緒に口ずさんだり、手拍子をしたりとご入院されている患者さんやご家族の方にクリスマスの雰囲気を楽しんでいただきました。

また、コンサート終了後には、ささやかなクリスマスプレゼントが皆さんへ渡されました。



入社式

4月1日(火)、2014年度 社会医療法人財団白十字会の入社式が行われました。今年には佐世保地区全体で73名、そのうち佐世保中央病院には40名の新入職員が仲間入りをしました。



白十字会大忘年会

12月16日(火)、17日(水)の2日間に亘り、白十字会グループの大忘年会が開催され610名を超える職員が参加しました。

開宴に先立ち、提案委員会表彰、永年勤続表彰が行われ、その後病院ボランティアとしてご活躍いただいている皆様への感謝状贈呈式が行われました。

忘年会は他部署との交流を図ることも大切な機会ですので、いくつかの部署をミックスしたテーブル席で、美味しい料理や富くじ抽選会、バラエティに富んだ余興を楽しみました。

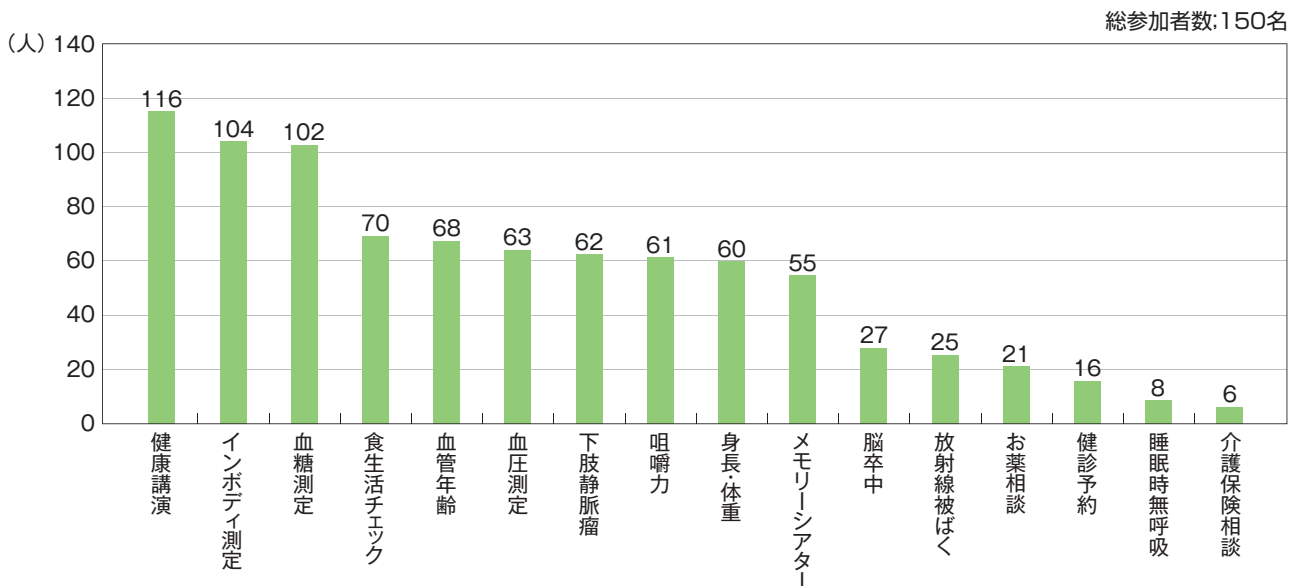


ふれあい健康フェスタ 2014

地域貢献事業の一環として、2014年5月31日(土)、ふれあい健康フェスタ2014を開催しました。7回目となる今回は、近隣住民の皆様を中心に約150名の方にご参加いただきました。

イベント内容としては、例年実施している健康講演、ミニコンサートに加え、血管年齢、インボディ、血糖、血圧などの様々な検査や各種医療介護相談を実施しました。今回のセミナーは、テーマの異なる健康講演を二つ企画し、当院心臓血管外科の中路医師、外来看護師に下肢静脈瘤に関する講演、当院小児科の山田医師に小児の生活習慣病に関する講演をいただきました。特に下肢静脈瘤については、看護相談ブースも参加者が多く、関心の高さが伺えました。また、各専門職種(看護師、保健師、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、薬剤師、理学・作業療法士、ソーシャルワーカー等)が工夫し、参加者が興味を引くような内容とブース設営で参加者も楽しく体験され、多くのご相談もいただきました。アンケートでいただいた多くのご意見を参考にし、次回も一人でも多くの方にご参加いただけるように、企画・運営をしていきたいと考えています。

■ブース別参加者数



■イベントの様子



メイン会場



ミニイベント



健康講演



血糖測定コーナー

新規医療機器紹介

第1血管造影室

●バイプレーンフラットパネル型血管造影装置 1台

ALLURA Clarity FD20/20:フィリップスエレクトロニクスジャパン

●造影剤注入装置 2台

PRESS DUO:根本杏林堂

最新式のバイプレーン血管造影装置で、大視野のフラットパネルを正面・側面に配し2方向同時撮影が可能のため、検査時間短縮・造影剤減量が可能です。また、アームを回転させることで、3D画像も得ることができ、治療の際に非常に役立ちます。



第2血管造影室

●フラットパネル型血管造影装置 1台

Infinix Celeve-i INFX-8000C:東芝メディカルシステムズ

●造影剤注入装置 2台

MarkV Plus:日本メドラッド

心臓血管造影検査(心臓カテーテル検査)では、動脈または静脈からカテーテルと呼ばれるストロー状の細い管を挿入します。この検査では、心臓内の圧力を計測したり、造影剤を注入して心臓の動きや心臓自身を栄養する冠状動脈と呼ばれる細い血管を動画で観察することができます。当院では、最新式のフラットパネルディテクタ型装置を設置しています。



核医学検査室



●SPECT装置 1台

Bright View X:日立メディコ

核医学検査(RI)は、放射性医薬品を静脈から注射などで投与し、外部から見えない病気の場所や臓器の機能の異常を調べるものです。当院の装置は、2検出器ガンマカメラタイプで、検出器を180°対向や90°L型に配置させ、自動近接で撮影することにより、高画質で短時間に検査できます。

尿化学分析装置

●クリニテック ノーバス SIEMENS社



本装置は、日本を含む世界で最も多く使用されてきたエームス尿検査試験紙をカセットタイプに改良されたものです。カセットタイプの試薬で、簡単に素早く試験紙の補充が可能で、廃棄も試験紙に手を触れずにできます。検体処理能力は最大240検体/時間で、内臓のカラーデジタルカメラで試験紙の画像を記録し、反応した試験紙の反射光度を分析するため、データの信頼性が向上しました。さらに糖尿病性腎症のスクリーニングや管理に有効な尿中アルブミンが、クリニテックノーバスでは測定できるようになりました。今後尿中アルブミンは糖尿病性腎症だけでなく、高血圧や慢性腎臓病(CKD)、さらには心疾患のリスク管理に有効になると期待されています。

呼吸機能測定装置

●SP-770COPD Type-D フクダ電子株式会社

2011年の慢性閉塞性肺疾患(COPD)による死亡順位は全体の9位で、日本人のCOPD患者数は530万人と推定されています。しかし、隠れCOPDといわれる患者も多く、それらの患者を早期に発見するために本装置を用いた呼吸機能検査は重要です。COPDの早期発見の他、じん肺、術前検査の呼吸機能状態の確認にも活用されます。本装置を用い肺機能検査を行うことにより、肺の健康状態を知るヒントとしての肺年齢を推定することも可能です。



全自動免疫染色・in situ Hybridization装置

●ベンタナ ベンチマーク ULTRA ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社

免疫組織学的染色は、「一般染色では鑑別が困難な稀な疾患の鑑別」や「近年の分子標的治療薬開発によって癌患者に対する治療薬の適応の有無の確認」のために実施する、今後さらにニーズが高まる検査です。本機器は免疫染色およびin situ Hybridization (ISH)を全自動で行うことができる装置で、他社の装置と比べても最上位の機器です。現在、世界35カ国に渡る2,500施設において、計5,500台が稼動しており、マーケットで圧倒的なシェアを得ています。コンティニューアスアクセス方式の採用により、突発的に発生する染色オーダーにも迅速な対応が可能になり、病理検査室のワークフローに大きく貢献しています。



患者会・家族会活動実績

日本糖尿病協会長崎支部「佐世保みなと会」

佐世保みなと会とは、昭和43年、日本糖尿病協会の長崎県支部佐世保分会として、糖尿病患者を中心に佐世保中央病院にて発足された患者会です。糖尿病に関する講習会、運動療法の実技・実習に関する講習会、専門誌の配布など様々なことを計画・実施しています。

活動内容

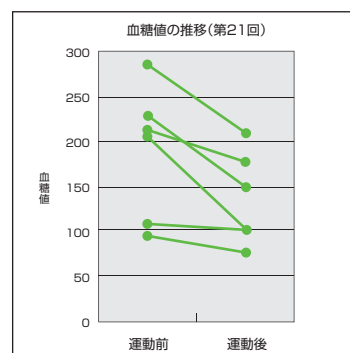
①総会の開催

年に1回、11月に開催しています。医師、看護師、理学療法士、栄養士、検査技師などの参加のもと、総会、講演会、懇親会、グループワークなどを開催しています。



②運動療法講座「青空いきいきウォーキング」の開催

毎年、5月と10月に理学療法士を中心に開催しています。看護師や医師も同行しながら、ウォーキングや予防体操などを行っています。ただ歩くだけでなく、毎回、糖尿病に関するショートレクチャーを用意しています。参加者は、運動の前後で血圧・血糖・体重などの測定を行い、変化を一目で見ることができ、運動の効果が楽しみながらわかります。



過去に参加された方々の血糖値の推移です。このように運動によって血糖値が下がってます。

③1型糖尿病の会「1型サークル」の開催

日本では、糖尿病患者のうち95%以上が2型糖尿病ですが、この会は1型糖尿病の患者さんを対象とした会です。平成23年4月より、講演会、懇親会などを開催しています。



④糖尿病のことがなんでもわかる月刊誌「さかえ」の配布

月刊誌「さかえ」は、糖尿病療養の最新情報、食事療法を活用したクッキングレシピ、療養生活のちょっとしたコツ、患者さんの体験談、医療スタッフの声などが掲載された糖尿病専門雑誌です。入会すると毎月読むことができます。糖尿病や予防に関する最新の正しい知識を取得することができます。

リウマチ友の会

平成12年7月8日、リウマチ全般に関して活発かつ自由な討論が出来る場をつくり、病気に関する理解を深めることを目的に佐世保中央病院に『リウマチ友の会』が発足しました。

患者同士が親睦を図り、様々な医療情報や生活の工夫を交換し、交流できるように、そして医療従事者と患者さんが一体となりチームワークを組んで治療・ケアを行っている礎となるように、と活動しています。

活動内容

①リウマチ友の会開催

※過去開催された題目、内容(一部)

■医師講話

- ・「リウマチの最新の治療について」
- ・「リウマチ患者さんの肺病変」
- ・「関節リウマチ治療の最近の話題」



医師講話

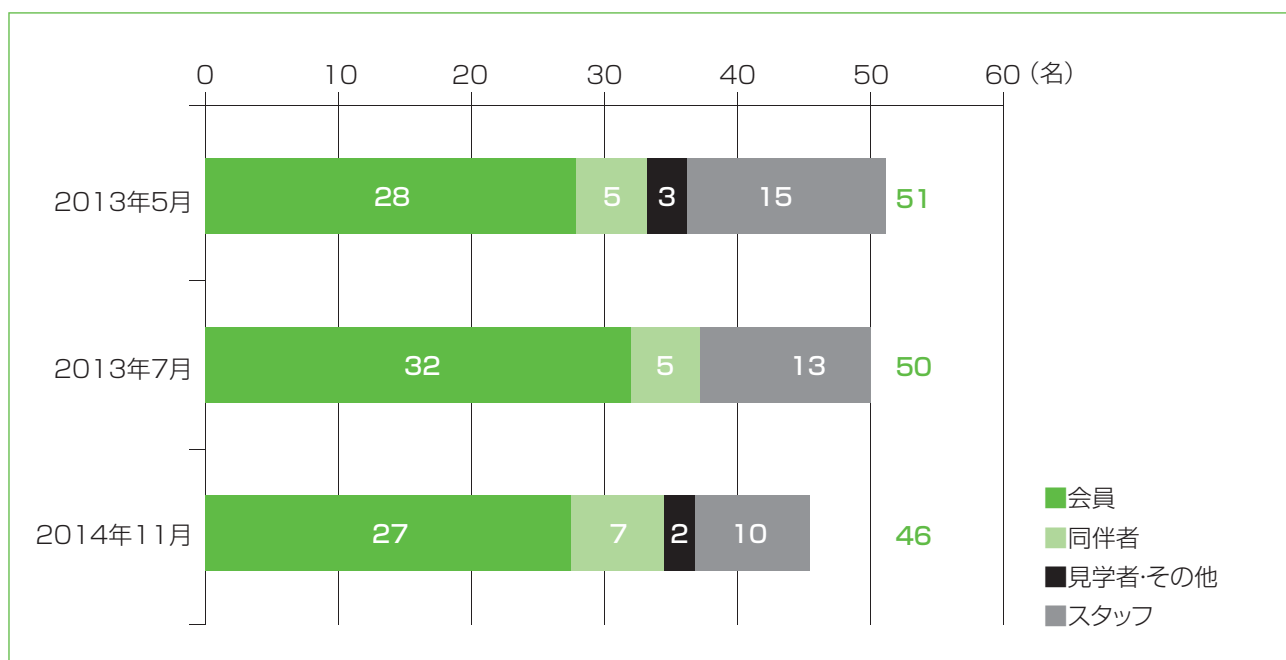


リウマチ体操

●2013年度/2014年度 リウマチ友の会参加人数

(名)

	2013年5月11日	2013年7月27日	2014年11月1日
会員	28	32	27
同伴者	5	5	7
見学者・その他	3	0	2
スタッフ	15	13	10
合計	51	50	46



メモリー・クラスルーム(認知症健康教室)

認知症に対する理解を深める事で、適切な介護方法を理解し、行動心理症状(BPSD)の予防や介護負担を軽くすることができます。当センター受診の予約をされて待機中のご家族や、診察検査が終わり確定診断を受けられたご家族を対象に、認知症の健康教室を毎月1回開催しています。

開催実績

	診療前参加家族数	診療後参加家族数	合計		関連職員参加(人)	総参加人数
	※()内は全体の総参加家族数に対する割合		家族数	人数		
第34回(2014年4月)	9 (53%)	8 (47%)	17	27	3	30
第35回(2014年6月)	9 (45%)	11 (55%)	20	36	7	43
第36回(2014年8月)	6 (75%)	2 (25%)	8	12	7	19
第37回(2014年9月)	9 (69%)	4 (31%)	13	22	0	22
第38回(2014年10月)	6 (60%)	4 (40%)	10	19	11	30
第39回(2014年11月)	5 (56%)	4 (44%)	9	15	1	16
第40回(2014年12月)	2 (50%)	2 (50%)	4	6	8	14
第41回(2015年1月)	4 (50%)	4 (50%)	8	13	1	14
第42回(2015年2月)	6 (43%)	8 (57%)	14	19	4	23
第43回(2015年3月)	9 (75%)	3 (25%)	12	16	4	20
合計	65 (57%)	50 (43%)	115	185	46	231

※関連職員:長寿社会課職員、市内地域包括支援センター職員、DC職員

健康教室内容

- ①認知症ってどういう病気?
- ②治療薬のお話
- ③適切な介護について、
患者さんの心の中を知る
- ④介護体験談(『認知症の人と家族の会』より)
- ⑤介護保険認定の申請方法、
介護施設の上手な利用法について

緩和ケアチーム

2002年WHOは、1.終末期ではないという事、2.患者だけでなく家族も含み、3.疾患は「がん」に限定せず、「生命を脅かす疾患」と定義を変更しました。

現在の緩和ケアで一番大事なことは、1)【QOLを高めること】2)【疾患の早い段階にも適応すること】です。当院の緩和ケアチームも緩和ケアの3要素である、(1)症状コントロール、(2)コミュニケーション、(3)家族ケアを大切に「ベストサポートケア」を目指しています。

1.医療者向け教育研修会

- (1)【緩和ケア医師研修会】
- (2)【地域共同学習会「看取りケア・エンゼルケア」】
- (3)【ELNEC-J】共催:佐世保総合病院&佐世保中央病院
- (4)【緩和医療研究会】 (5)【ランチョン・ミーティング】



3.【遺族会】



2.患者同士の支え合いの場:がんサロン【絆】



4.【緩和ケア啓発 街頭キャンペーン】



資格取得奨励支援制度

職員が自らの職能の向上をめざし学習・研鑽する意欲を奨励、支援、助成し、医療・介護の質の向上に寄与することを目的としています。資格は職務の質の向上に寄与する程度や難易度によって、「奨励資格」、「支援資格」、「評価資格」の3つに分類されています。ここでは、制度を利用し「支援資格」に合格した実績を紹介します。

部門	資格名	合格者数(名)
看護部	AHA BLSインストラクター	2
	AHA ACLSプロバイダー	12
	キネステティクス(ベーシック)	1
	長崎県看護協会 看護協会リスクマネージャ養成研修I	2
	認定看護管理者教育課程(ファーストレベル研修)	2
	認定看護管理者教育課程(セカンドレベル研修)	1
臨床検査技術部	細胞検査士	1
リハビリテーション部	ボバース講習会3週間基礎講習会	1
	呼吸療法認定士	3
栄養管理部	日本糖尿病療養指導士(JCDE)	2
事務部	医師事務作業補助	3
合計		30

提案制度

●提案制度について

当院では、業務の改善や改革などに寄与する職員の提案を奨励し、その提案を積極的に採用する事により、組織に対する参加意識を高め、職場風土の活性化を促進するために提案制度が設けられています。

提案事項は業務に関連した創意と工夫による内容とし、全ての職員が提案する資格を有しています。また、担当職務範囲を超えたものでもよく、共同提案も可能となっています。

提案事項は提案委員会が受付窓口となっており、定期的に審議し採否を決定しております。採用された提案については、提案規定に基づき表彰を行っています。

●直近5年間の提案件数

(提案制度の1期は11月～翌年10月までです)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
提案件数	57件	53件	39件	35件	32件
(うち採用)	36件	34件	21件	27件	18件
(うち不採用)	18件	10件	10件	7件	7件
(保留)	3件	—	2件	1件	1件
(差し戻し)	—	5件	1件	—	3件
(その他)	—	4件	5件	—	3件

●直近5年間の表彰実績

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
施設表彰・金賞	1名	該当なし	1名	1件	該当なし
施設表彰・銀賞	該当なし	1名	1名	1件	2件
施設表彰・銅賞	11名	7名	2名	3名	3名

※施設表彰金賞、銀賞は優秀な提案に対して送られる表彰となっており、銅賞は提案制度年間ポイント上位者表彰となっています。

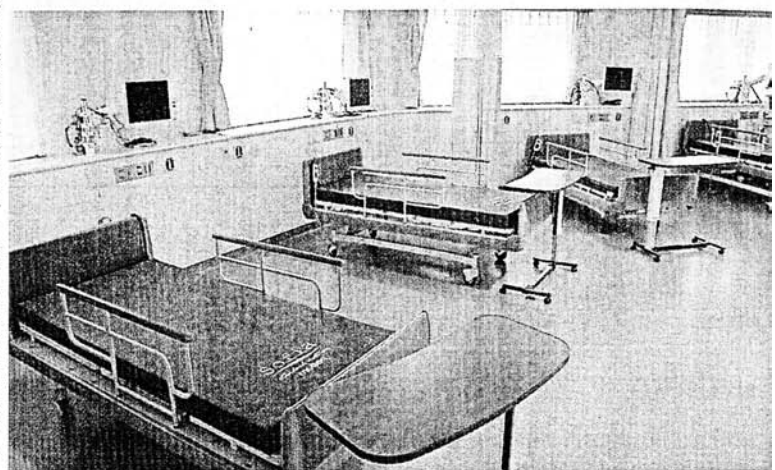
新聞記事などの紹介

長崎新聞 平成26年7月23日(水)掲載 佐世保中央病院、南館完成

中央病院 南館が完成 SCU新設

佐世保中央病院(佐世保市大和町、碓秀樹院長)の敷地で増築工事が進められていた南館が完成し、16、17両日に関係者向け見学会があった。

本館が手狭になったことから増築。鉄筋コンクリート造り5階建て、延べ床面積6971平方メートル。SCU(脳卒中治療室)や、感染症外来の専用通路スペースを新設したほか、本館各科病棟のベッド計300床の



南館に新設したSCU＝佐世保中央病院

うち80床を南館に移す。8月から来年6月にかけて本館を改築。救急外来機能を拡充し、認知症対応スペースを糖尿病内科や腎臓内科など各科に新設する。

碓院長は「南館は、全体の改築の第1ステージ。県北地区からの救急搬送は増加傾向で、今後も高齢化に伴い、救急外来や認知症患者は増えるため、態勢を整えたい」と話した。

(板倉聖教)

学会発表実績

部署	氏名	学会名	会期	演題名
糖尿病リウマチ 膠原病センター	菅沼 徳恵	第58回日本リウマチ 学会総会・学術集会	4月 24～26日	生物学的製剤投与中の関節リウマチ患者への 質問紙による満足度調査
臨床検査 技術部	丸田 秀夫	第103回 日本病理学会総会	4月 24～26日	当院におけるISO15189認定の 取得・維持について
感染制御部	奥田 聖子	第3回日本感染管理 ネットワーク学術集会	5月 9～10日	血管内留置用プラスチックカニューレによる 針刺し事例への再発防止策の検討
臨床検査 技術部	伊藤 将大	第63回 日本医学検査学会	5月 17～18日	高浸透圧条件下で偽低値を呈した 血糖POCT機の検討
栄養管理部	貴島左知子	第57回日本糖尿病学会 年次学術集会		当院における透析糖尿病予防指導の評価
外来・救急外来 看護課	西原 美子	第11回 日本褥瘡学会 九州地方会学術集会・ 教育セミナー	5月 24～25日	法人内認定皮膚ケアナースの取り組み ～褥瘡発生減少に向けて～
3東病棟 看護課	原田 美紀			「多職種協働による褥瘡管理の成果」圧測定 を実施してポジショニングを検討した結果
3西病棟 看護課	鴨川千香子			
ICU・ 透析看護課	山口 梓			
リハビリ テーション部	田代 伸吾	第49回 日本理学療法学術大会	5月30日 ～6月1日	急性期脳血管疾患患者における ロボットスーツHALの即時効果
リハビリ テーション部	下川 善行	第51回日本リハビリテー ション医学会学術集会	6月 5～7日	多職種協働による退院前訪問が自宅復帰に 結び付いた慢性腎不全を合併した脳幹梗塞の一例
臨床検査 技術部	片渕 直	第29回長崎県臨床細胞 学会総会および学術集会	6月 21～22日	長崎県におけるLBCの現状(婦人科)
リハビリ テーション部	小川 弘孝	日本関節運動学的アプローチ医学会 理学作業療法士会第15回学術集会	6月 22～23日	軽度の歩行障害患者に対するAKA-博田法の即時効果～日本語版改訂 gait efficacy scaleと10m歩行速度を用いての検討～
臨床検査 技術部	入江 美奈	第30回日本臨床細胞 学会九州連合会学会	7月 5～6日	気管支に発生した腺様嚢胞癌の一例
薬剤部	岩村 直矢	第5回MRSAフォーラム	7月12日	バンコマイシンのMIC値が MRSA肺炎の治療効果に及ぼす影響
リハビリ テーション部	川上 章子	第20回日本心臓リハビリ テーション学会学術集会	7月 19～20日	慢性心不全患者における自宅復帰に 影響を与える要因の検討
4西病棟 看護課	椎葉 和子	第23回 日本心血管 インターベンション 治療学会	7月 24～26日	心電図の理解を深める取組み ～病棟独自の心電図学習法システムの 構築を目指して～
4西病棟 看護課	山村 緑			PCI/AMI地域連携パスを使用した 患者への継続管理の検討
外来・救急外来 看護課	福田 愛子			
外来・救急外来 看護課	井上 孝子			
リハビリ テーション部	川上 章子	長崎リハビリテーション塾	9月13日	多職種協働により自宅退院を実現できた 間質性肺炎終末期患者の一症例
	野田 舞			重症例の在宅復帰の取組み ～高齢家族への介助指導を中心に～
放射線 技術部	馬場 隆治	フィリップスユーザーズミーティング 全国大会 Gyro Cup 2014	9月19日	T2 PrepTFE Cor下肢動脈撮像法
3西病棟 看護課	桃野 孝介	第30回 九州ストーマ リハビリテーション研究会	9月20日	在宅連携により退院支援が可能となった ストーマ保有患者の一症例
3南病棟 看護課	松永みのり			
リハビリ テーション部	松原 賢	長崎HAL研究会	9月25日	脳梗塞を発症した症例に対してロボット スーツHALを使用した歩行訓練の経験

部 署	氏 名	学 会 名	会 期	演 題 名		
4西病棟 看護課	吉田 朝美	第45回 日本看護学会 看護管理学会	9月 25～26日	アナムネーゼ聴取の業務改善にむけての検討 (第2報) ～自己記入用紙を用いたアナムネーゼ聴取時間の 測定・分析、及び患者・看護師間さ取り調査より～		
4東病棟 看護課	橋本 妹子			療養指導導入のための 外来看護業務量の実態調査		
外来・救急外来 看護課	大石 智美					
外来・救急外来 看護課	宇戸 康子					
薬剤部	曾根本恵美	第24回 日本医療薬学会年会	9月 27～28日	関節リウマチに対するトシリズマブ 皮下注製剤の有効性に関する検討		
	岩村 直矢			バンコマイシンのMIC値と MRSA肺炎の治療効果に関する検討		
地域医療 連携センター	本 康剛	第6回看看連携交流会	10月4日	在宅支援ナースとMSW協働による 在宅支援について		
臨床工学部	前田 博司	第9回九州臨床工学会	10月 4～5日	現場の困りごとをかたちへ～長崎県医療福祉 ニーズ発事業創出支援事業へ参加して～		
リハビリ テーション部	藤田 裕馬	第4回日本語聴覚士協会 九州地区学会大会	10月 11～12日	誤嚥性肺炎患者の経腸栄養開始時期と 嚥下機能、在院日数との関係		
ICU・ 透析看護課	牛島めぐみ	第20回 長崎県呼吸ケア研究会	10月18日	佐世保中央病院呼吸療法サポートチームの 現状と課題～看護の視点から振り返って～		
手術室・ 中材看護課	水本 諭志	第45回 日本看護学会 急性期看護	10月 23～24日	開心術器械準備の写真を取り入れた マニュアル作成 ～技術チェックによる マニュアルの評価を試みて～		
	辻 勝志					
ICU・ 透析看護課	福田 亮			経口気管挿管チューブ固定テープの 除去方法の検討 ～看護師への試験導入による フローチャートの作成～		
	小川かずみ					
4南病棟 看護課	末永 育代			急性期心疾患患者のADL評価の在り方 ～理学療法士と看護師の FIM評価を比較して～		
4東病棟 看護課	藤井 孝子			心臓カテーテル検査前 オリエンテーションの実態 ～部署間の連携を図った 説明ツールの作成を目指して～		
4東病棟 看護課	船崎このみ					
3南病棟 看護課	長井 友美					
3西病棟 看護課	荒木 祐子			第45回 日本看護学会 急性期看護	10月 23～24日	チーム内における情報共有の評価 ～業務遂行ミーティング導入を行って～
3南病棟 看護課	松永みのり					急性期病棟における排泄援助への取り組み ～ADL活動表による情報共有を図って～
5階西・消化器 内視鏡センター	山口 友紀					
4東病棟 看護課	坪田 美恵					
臨床工学部	谷口 一俊	第7回長崎県臨床工学会	10月26日	当院における術中モニタリング業務について		

部署	氏名	学会名	会期	演題名
糖尿病リウマチ 膠原病センター	野口早由里	第52回 日本糖尿病学会 九州地方会	10月31日 ～11月1日	運動習慣のない患者に スローステップ台を用いた指導後の調査
3東病棟 看護課	松山 典子			糖尿病教育入院患者の PAID、SESDの変化と患者背景との関連性
リハビリ テーション部	川上 章子			2型糖尿病患者における振動覚低下が 運動能力に影響する一考察について
	岡 亮平			糖尿病患者における ステップ運動の有用性に関する検討
	岡本 愛美			糖尿病教育入院患者に対する退院後の運動療法継続に 関する調査について～退院後アンケートの結果より～
栄養管理部	貴島左知子			随時尿から見た外来患者の 推定食塩摂取量の現状
	松永 大輝			血糖変動の自己記録による 見える化の有用性について
	江口 愛			糖尿病患者の 夏場の水分補給についての実態調査
リハビリ テーション部	藤田 裕馬			リハビリテーション・ ケア合同研究大会長崎 2014
	中島 拓哉	慢性呼吸不全に対する包括的呼吸リハビリ テーションアプローチを行った一症例		
	吉田真奈美	周術期がん患者のリハビリテーション～介護保険認定者の リハビリテーションの現状と重要性について～		
	浦田美智子	在宅酸素療法の受け入れを目指し チームで取り組んだ一症例		
	田中亜憂美	急性期病院における廃用症候群による運動 機能低下と栄養状態評価の関連について		
システム 開発室	竹谷 貴海	第34回 医療情報学連合大会	11月 6～8日	電子カルテシステムハードウェアリプレース
	南里 忠広			ガイドラインに沿う 医療情報システムのサーバ更新
リハビリ テーション部	田代 伸吾	九州理学療法士・ 作業療法士合同学会 2014	11月 22～23日	既往に大腿切断、心筋梗塞を有し、加えて運動 麻痺、失行、失語を呈した脳梗塞症の一例
	吉田 裕志			両下肢に長下肢装具を使用した高座位・立位・歩行訓練 により早期に意識障害の改善が図れた一症例
	中野 隆介			急性期脳幹梗塞発症後にロボットスーツHAL を使用して歩行獲得を目指した一症例
臨床検査 技術部	丸田 秀夫	第61回日本臨床検査 医学会学術集会	11月 22～25日	臨床検査技師のチーム医療へのかかわり ～現状と今後の展望～
認知症疾患 医療センター	川口さゆり	第33回 日本認知症学会学術集会	11月29日 ～12月1日	「認知症地域支援ネットワーク会議」の構築
臨床工学部	中山 絵美	第47回 九州人工透析研究会 総会	11月30日	当院のシャント管理 ワーキンググループの活動報告 ～第二報～
	中嶋喜代子			
ICU・ 透析看護課	藤原勢津子			
	富田 律子			
ICU・ 透析看護課	古川みさき	第29回 心臓血管外科 ウインターセミナー 学術集会		抑肝散による譫妄予防の有効性の評価
	牛島めぐみ			
薬剤部	岩村 直矢	第17回長崎県病院 薬剤師会感染制御研修会	1月31日	バンコマイシン初期投与と設計の 取り組みについて
ICU・ 透析看護課	牛島めぐみ	第42回 日本集中治療医学会	2月 9～11日	薬剤投与による譫妄予防の有効性の評価
	浦川 昂大			

部署	氏名	学会名	会期	演題名
ICU・透析看護課	福田 亮	日本医療 マネジメント学会 第15回 長崎支部学術集会	2月14日	経口気管挿管チューブ固定テープの除去方法の検討 ～看護師への試験導入によるフローチャートの作成か～
3東病棟看護課	荒木 祐子			チーム内における情報共有の評価 ～業務遂行ミーティング導入を行って～
4西病棟看護課	船崎このみ			当病棟における心電図の 理解を深める取り組み
リハビリ テーション部	松原 賢	第26回 長崎県理学療法学会	2月 14～15日	脳梗塞を発症した症例に対してロボットスーツ HALを使用した歩行訓練の経験
	木戸 将貴			方向性に難渋した右被殻出血の一症例 ～在宅復帰に向けたチームアプローチ～
	木村沙那恵			化学療法施行ごとに運動療法を行ったことが 活動性維持に繋がった進行小細胞肺癌の一症例
	河内 史江			COPD急性増悪後、ICU-AW様症状を 呈した症例に対する早期離床の試み
感染制御部	奥田 聖子	第30回 日本環境感染学会	2月 20～21日	関連施設ラウンドにより改善が難しかった 問題について指導方法の検討
リハビリ テーション部	阿比留 宏	第22回 長崎県作業療法学会	3月 7～8日	当院におけるリウマチ教育への取り組み ～クリニカルパスを通して～
	木崎 康			肺癌患者への動作指導 ～緩和としてのOTの関わり～
薬剤部	紙谷友里子	第49回 九州リウマチ学会	3月 21～22日	関節リウマチ患者への 薬剤説明の現状とその評価
リハビリ テーション部	大平 康智			発症から早期にリハビリ介入を行った事がADL向上に 寄与したと考えられる関節リウマチの一症例